

陸軍通信學校

又島友輝

山崎源典

陸軍通信學校

田島少佐

河野健雄

陸軍科學研究所

齋藤少佐

齋藤壽雄

"

子島少佐

草場季枝

陸軍技術部

中島少佐

松井信康

"

子島少佐

菅原易三

教育總務部

秋田少佐

依村善雄

"

中島大佐

中島善雄

陸軍通信學校

中島大佐

中島善雄

陸軍通信學校

陸軍通信學校

陸軍通信學校

Vertical text on the left margin, including names and dates.

Four dots arranged vertically.

陸軍次官ヨリ逓信次官へ通牒

電波統制協議會ニ於ケル當省ヨリノ出席者中左記ノ通變更改致候ニ付了知相成度候

左記

前任者 旧陸軍省庫務局防備課長 工兵大佐 星川久七

後任者 新同 工兵中佐 桑原四郎

陸軍第一三二號 昭和六年三月廿六日

電波統制協議會ニ於ケル當省ヨリノ出席者中左記ノ通變更改致候ニ付了知相成度候

◎

陸軍省

- 陸軍省軍務局防備課長
- 同 軍務局
- 同 兵器局器材課長
- 同 兵器局
- 參謀本部
- 同
- 陸軍航空本部
- 陸軍通信學校
- 同

電波統制協議會委員

(昭和五年十二月十二日現在)

- 陸軍工兵大佐 星川久七
- 陸軍工兵大尉 中尾留次
- 陸軍工兵大佐 松井命
- 陸軍工兵大尉 大河原鐵之助
- 陸軍工兵大佐 高屋庸彦
- 陸軍工兵中佐 大津和郎
- 陸軍航空兵少佐 眞崎久滿雄
- 陸軍工兵中佐 安山武雄
- 陸軍工兵少佐 津田常雄
- 梅戸少將

六三、一二、三

陸軍通信學校

陸軍科學研究所

同

陸軍技術本部

教育總監新工兵監部

海軍省

海軍省軍務局第二課長

同 軍務局局員

同 教育局局員

同 電信課課員

海軍軍令部參謀

同

陸軍工兵少佐

河野健雄

陸軍砲兵大佐

石井善七

陸軍工兵大尉

草場季喜

陸軍工兵中佐

菅波易二

工兵大尉

田山文九

佐野少将

海軍大佐

清水光美

海軍少佐

伊藤安之進

海軍中佐

一ノ瀬信一

海軍中佐

殿村千三郎

海軍大佐

降幡敏

海軍中佐

原鼎三

海軍艦政本部第二部長

(一)(二)(三)(四)(五)伊賀次

海軍艦政本部第二部長

海軍艦政本部部員

同

海軍技術研究所電氣研究部長

海軍技術研究所所員

同

海軍水雷學校教官

逕信省

逕信省電務局業務課長

逕信省電務局業務課

同

海軍少將

西崎勝之

海軍大佐

服部正計

海軍造兵中佐

稻田虎彦

海軍造兵少將

箕原勉

海軍造兵少佐

谷惠吉郎

海軍大尉

中野實

海軍中佐

佐々木清恭

山江佐

逕信書記官

田村謙治郎

逕信省事務官

中村寅市

逕信技師

竹林嘉一郎

逓信省電務局業務課

逓信技師

格喜雅

同

逓信技手

黒田吉郎

電務局外國電信課長

逓信書記官

飯野毅夫

同 電務局外國電信課

逓信省事務官

渡邊彌門

同

同

市橋良治

同 工務局電信課長

逓信技師

初見五郎

同 工務局電信課

逓信技師

中上豊吉

同

逓信技師

荒川大太郎

同

逓信技師

小野孝

同

逓信技師

穴澤忠平

同

逓信技手

金子金藏

同 電氣試驗所第四部長

電氣試驗所技師

横山英太郎

同

電氣試驗所技師

楠瀬雄次郎

逓信省電務局業務課
逓信技師
逓信技手
逓信書記官
逓信省事務官
逓信技師
逓信技師
逓信技師
逓信技師
逓信技師
逓信技手
電氣試驗所技師
電氣試驗所技師

電氣

電氣
(一) 電氣

(二) 電氣
(三) 電氣
(四) 電氣
(五) 電氣

同

電氣試驗所技師
松村定雄

電波統制協議會分科委員會委員

◎印八各省連絡委員

第一委員會

同	通	航	參	同	軍	陸	軍	第一
	信	空	謀		務	軍	省	委
	學	本	本		局			員
	校	部	部					會

◎

瀨	安	眞	大	中	星
田	田	崎	津	尾	川
少	中	少	中	大	大
佐	佐	佐	佐	尉	佐

完
 達
 補
 善
 改
 設
 普
 運
 金
 番
 本
 廠

海軍省
 軍務局
 同
 軍令部
 同
 艦政本部
 水雷學校
 電信省
 電務局
 同
 同
 同
 同
 同

◎ 清水大佐
 伊藤少佐
 降幡大佐
 原中佐
 服部大佐
 佐々木中佐
 ◎ 中村事務官
 竹林技師
 椿屬
 黒田技手
 渡邊事務官
 市橋屬

經

錄
之
一
二
三
四
五
六

(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)

工務局
同
同
同

第一委員會特別委員

陸軍省
海軍省
逓信省

中上技師
荒川技師
小野技師
金子技師

中尾大尉
伊藤少佐
小野技師

第二委員會

陸軍省

兵器局
航空本部

大河原大尉
眞崎少佐

念
 修
 達
 達
 補
 善
 改
 心
 二
 分
 利
 設
 普
 運
 金
 箱
 本
 二
 二

工	同	電	通	同	技	繼	軍	海	同	科	同	通
務		務	信		術	政	令	軍	科	學		信
局		局	省		研	本	部	省	學	研		學
					究	部			究	所		校
					所				所			

中	黑	竹	◎	中	谷	稻	原	◎	草	石	河	安
上	田	林		野		田		場	井	野	田	田
技	技	技		大	少	中	中	大	大	少	中	中
師	手	師		尉	佐	佐	佐	尉	佐	佐	佐	佐

表
衣
衣
衣
衣
衣
衣
衣
衣
衣

第三委員會

陸軍省

通信學校

同

科學研究所

同

技術本部

海軍省

同
同
同
電氣試驗所

◎

小野技師

金子技手

橋山技師

松村技師

◎

瀬田少佐

河野少佐

石井大佐

草場大尉

菅波少佐

昭和
研究
昭和
昭和
昭和
昭和

電	同	同	同	工	同	電	信	水	同	技	經
氣				務		務	省	雷		術	政
試				局		局		學		研	本
驗								校		究	部
所										所	

		◎								◎		
楠	金	穴	荒	中	黒	竹		佐	中	谷	稻	
瀬	子	澤	川	上	田	林		々	野		田	
技	技	技	技	技	技	技		木	大	少	中	
師	手	師	師	師	手	師		中	尉	佐	佐	

卷第...
 卷第...
 卷第...
 卷第...
 卷第...
 卷第...

保存期限
 決裁指定
 局長
 決行指定
 牛島

房官臣大		課局務主		大臣	件名	番	受
了結	領受	出提	領受				
昭和	昭和	昭和	昭和	陸	電波統制協議會出席者1件	三	第
年	年	年	年	五			
月	三月	月	月	九			
日	廿九	日	日	号			
(裁決)行決		帶連		局長	政務	元應(課)名	
覽回後		局長		主務	次官	軍務局防備課	
局長		局長		課長	高級		
長課		長課		主務	副官		
				主務課員	主務副官		
					官房御用掛		
					書記官		
					審案		
					筆記者		

政務次官
 參與官
 回付
 決裁後
 連帶
 課名

決行(決裁)後
 回覽課名

三
 五

表第
表第
表第
表第
表第

卷
編

陸秀外一二一號

憲法統制協議會出所者一併通條

昭和七年三月廿五日

陸軍部

通信部

憲法統制協議會之成立者三月一日出
席者中亦記一通書更以此付了局

李

前何者 口陸軍部事務防務課也工長在院日星月久也

後何者 新

工部省陸軍部

寫

陸軍第三〇三〇號

國力電報表割出之圖之三者有誤一併回答

昭和三年五月廿五日

陸軍部

原任中野

四月廿四日陸軍部第九三五號照會旨趣一併
異存世之陸軍部三月廿九日通知一併出席
七月廿八日二年四月廿八日

左記

- 陸軍部中野防備課長 工員大佐 田島川久七
- 課員 工員大尉 中夜 齋原
- 兵部局資料課長 工員大佐 田島輝太郎

參謀部

部員

騎兵

山田乙三

陸軍航空部

部員

工兵少佐

古津和郎

陸軍航空部

部員

工兵少佐

島田郎雄

陸軍航空部

部員

工兵少佐

物部演

Vertical text on the left margin, including characters like 陸軍航空部, 部員, 工兵少佐, 島田郎雄, 物部演, 山田乙三, 古津和郎, 騎兵, 參謀部.

陸普次官より通信次官へ通牒

電波統制協議會に於ける出席者

中左記ノ通費更追加並異動致候條御諒

知相成度候

左記

陸普第六一五七號

昭和八年拾月貳日

前任者 參謀本部

陸軍工兵大佐 高屋庸彦

後任者 同

陸軍歩兵大佐 百武晴吉

前任者 陸軍通信學校長

陸軍少將 山田乙三

後任者 同

同 星川文七

追加 陸軍通信學校

陸軍工兵大佐 安田武雄

異動 陸軍通信學校長
陸軍省軍務局へ

陸軍工兵少佐 田山文治

(陸)



10 0114
11 110
火 1115
1 1115
10 110
11 1051

11月
01/10
04/10
01/15
01/15
11/1001

陸軍省
軍務局

(陸)

閱

三年

七四八號

二月廿四日



電業第一四二五號

昭和八年六月二十二日



本書類ハ左記同覽

陸軍次官殿

遞信次



電波統制協議會出席者ノ件
電波統制協議會ニ於ケル當省ヨリノ出席者中左記ノ通變更致候ニ付
御諒知相成度

記

退任者	電務局	遞信技手	兼田吉郎
新任者	同	同	原田清治

陸普

次官 通信次官 入通牒

電波統制協議會 於今午當省 出席
者中左記 一通變更致候條御諒知相成度
修

左

記

陸普第六六二九號

昭和八年拾月廿壹日

退任者

教育總監部

陸軍少將 佐村益雄

新任者

陸軍通信學校

陸軍士 丹羽 勇

尚書省第三委員 田山 女佐

丹羽大尉 妻 更 又

10 0111
11 1111
火 1111
1 4111
10 0111
11 1051

11 1111
11 1111
11 1111
11 1111

11 1111
11 1111
11 1111
11 1111
11 1111
11 1111

敬謝 函

敬謝 函

三年
陸軍第七四八師第三三

電業第二八八五號

昭和八年十月五日



省

陸軍次官殿

遞信次



電波統制協議會出席者之件

電波統制協議會ニ於ケル當省ヨリノ出席者中左記ノ通變更致候ニ付
御諒知相成度

記

新任者	同	同	同
退任者	工務局	遞信技師	初見五郎
	同	同	梶井剛

陸普次官より通信次官へ通牒

電政統制協議會ニ於て、今般省より出席者中、右記一通、変更致修條脚了、知相成

度修

右記

退任者 陸軍省軍務局 陸軍工兵中佐 中尾番次

同 參謀本部 陸軍工兵大佐 西村利温

新任者 同 陸軍歩兵中佐 福榮真平

尚中尾少佐退任ニ付、陸軍省第一委員特別

委員及連絡委員ヲ、田山少佐ニ変更ス

陸普第七九四二號

昭和八年三月廿七日



0+0.11
出紙10

Handwritten notes on the left margin, including numbers and small characters.

陸軍省
第七四八號
辨其三四

電業第三七七七號

昭和八年十二月廿七日



遞信省



陸軍次官殿

遞信次官



電波統制協議會出席者ノ件

電波統制協議會ニ於ケル當省ヨリノ出席者左記ノ通追加致候ニ付御諒
知相成度

追テ稻波技師ヲ第二委員會ニ出席セシメ度併而御諒知相成度

記

工務局
遞信技師
稻波季雄

閱

昭和九年

第七回 第二五

電業第一八七〇號

昭和九年六月四日



省

(PI)



陸軍次官殿

遞信次官



電波統制協議會出席者之件

電波統制協議會ニ於ケル當省ヨリノ出席者中左記ノ通變更致候ニ付御諒知相成度

記

退任者	電務局	遞信屬	市橋良治
新任者	同	通信書記	町田猪逸良

尚家族同伴ノ件ハ昭和九年十二月十日陸密第七
 ニ七號ニテ許可セラレアルモ其ノ能否ニ就テハ赴任
 ニ先立チ其ノ新所屬部隊ト豫メ連絡ノ上承知ス
 ルヲ要ス又之レカ乗車券ハツリーストビユーロー、
 鮮滿案内所及鐵道省線連帶驛ニ於テ連帶乗
 車券ヲ發賣スルニ付為念申添フ

陸普第六九四四號

昭和十年十二月四日

陸

11.010
 01月
 西 崎
 州海州 皇州
 11.011 11.012
 11.013 11.014
 11.015 11.016
 11.017 11.018
 11.019 11.020
 11.021 11.022
 11.023 11.024
 11.025 11.026
 11.027 11.028
 11.029 11.030
 11.031 11.032
 11.033 11.034
 11.035 11.036
 11.037 11.038
 11.039 11.040

五乘車期間

至自昭和

年

月

日

陸

軍

注意

一、請求書ハ正副(三通)提出ノコト

二、僕婢ハ一名ニシテ家族ニ随行スル者ニ限ル

三、家族僕婢ノ乗車等級ヲ異ニスル場合其ノ請求書ハ

別紙ニ記載スルコト

114.44

目 044.44

11 010

11 114

400 114

11 114

10 11

0 111

算 込

11 010

11 010

11 010

11 010

11 010

11 010

11 010

11 010

11 010

11 010

陸普次官通信次官へ回答

十二月十三日附外信第一四九四號

照會首題一件畧表無之候

陸普第七二八六號 昭和拾年十二月廿日



圖 算

114.44

1104.44

11018.54

114.44

400 118.00

1111.00

111.00

1111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

111.50

11.14

11.14



陸軍省 第三八二五 号

外信第一四九四號

昭和十年十二月



陸軍次官殿

遞信次官



對外無線電信受信所新設ニ關スル件

本邦對外無線電信ハ今般整備擴張ヲ必要トシ近ク大阪附近ニ適當ナル受信所ヲ新設スルコトト相成候處同受信所敷地トシテハ大体別紙圖面ノ通兵庫縣加東郡小野町又ハ社町附近カ最モ好適ノ地ニ有之同地ニ日本無線電信株式會社ヲシテ受信所ヲ設置セシメタキ意向ニ有之候處右ニ對スル貴省支障ノ有無御回報相煩度此段及照會候

逓信省經理局印

遞信省 (附)

陸普副官ヨリ逋信省電務局長へ回答
六月三日附電無第一一八三號ヲ以テ
電務局長照會ニ係ル首題ノ件ニ
存無之候

陸普第三二〇六號
昭和十年六月五日



Handwritten notes in a vertical column on the left side of the page, including numbers and illegible characters.

陸軍省 第一七三號

電無第一一八三號



昭和十年六月三日

四六〇

田共存十乙

陸軍省 軍務局長 殿

遞信省 電務局長



官廳用無線電信施設ニ關スル件

大阪帝國大學總長ヨリ左記官廳用無線電信施設方申請有之候處右承認ニ關シ貴省御支障ノ有無承知致度及御照會候

記

- 一 機器裝置場所 大阪市北區中之島四丁目八番地 大阪帝國大學理學部構内
- 二 施設ノ目的 無線電信ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ使用
- 三 空中線電力 一、五「キロワット」以下

39

保存期限

永久

決裁指定

局長

決行指定

牛島

新 三 第

政務次官
回付
決裁前後連帶

決行(決裁)後
回覽課名

永久

也代

受領番號

老丁三八七六号

起元廳(課)名

通信省

件名

放送無線電話、臨時放送ニ関スル件

大臣
委

政務次官
次官

委

參與官

書記官

審案
筆記者

主務局長

高級副官

主務課員

主務副官
官房御用掛
計

主務局長

受領番號

防通字二九号
昭和十年五月十八日

連帶

局長

長課

大臣官房

受領

昭和十年二月十九日

決行(決裁)後
回覽

局長

長課

昭和十年二月十九日

主

官

陸普副官より通信省電務局長へ回答
十二月六日附電無第三六四四號より
軍務局長宛照會に係り新設ノ富山
以下七放送局ノ臨時放送ニ付テハ
折合セテ要セザル儀ト承知相成建候

陸普第七二八五號昭和拾年十二月廿日





電無第三六四四號

陸軍省 第一三三三號



昭和十年十二月六日

遞信省 電務局長

陸軍省軍務局長殿

放送無線電話ノ臨時放送ニ關スル件

陸普第四三三一號 昭和七年七月十四日

放送無線電話時刻臨時變更ニ關シテ貴省關係方面トノ打合先ニ付曩ニ御協議ヲ遂ケ候處新設富山、鹿兒島、帶廣、山形、甲府、鳥取及宮崎ノ七放送局ニ對シテハ其ノ要否御回示相煩度此段及照會候

協議不要

陸軍省 九〇二



遞信省



官

電事第一八〇五號

昭和七年七月一日

逕信省電務局長

陸軍省軍務局長被

放送無線電話ノ臨時放送ニ関スル件

放送無線電話ノ許可時刻外ニ亘ル臨時放送ノ許可

ニ関シ貴省無線施設ノ關係ニ於テ支障ノ有無

打左方ニ付テハ曩々御協議ノ方法ニ依リ実行中ニ

有之候要本年及新設豫定ノ前橋、沼根、福井、

德島、長崎、及旭川、六放送局ニ對スル協議先決

回至相煩度此般及照會候

進テ既設放送局ノ中左記ハ協議並各種

車絡上ノ便宜ヲ圖リ成ルヘク放送局所在地
又ハ同地方ニ於ケル貴省所指定ノ軍事当局
ト協議ヲ行フコトニ所同意ヲ得度之ヲ協
議先併テ所回テ相相度尚本年年度新設
局ニ作テ也右ノ趣旨ニ依リ所指定相成様
致度

記

静岡、長崎、高知、岡山、松江、福岡、小倉、
秋田、札幌、函館、各放送局

靜岡、長崎、高知、岡山、松江、福岡、小倉、
秋田、札幌、函館、各放送局

陸軍第四三三一號

放送無線電報、臨時放送之関スル件通牒

昭和七年七月十四日

陸軍省副官

通信省電務局長殿

前題ノ件ニ関シ七月一日附電業第一八〇五號軍務
局長宛申込示、次第モ有之其ノ協議先ヲ別紙ノ
通定ノ吏ニ關係部隊へ通牒ニ置キ候ニ付了知
相成度候

進子本件ニ関スル昭和三年十月十九日附陸軍第
四八二七號回答ノ旨趣廢止スル事知相成
度存念申添候

別紙ノ陸軍省電務局長宛申込示ノ旨趣廢止スル事知相成
度存念申添候

... 11 11 11

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

...

...

陸軍第四三三一號

放送無線電話ノ臨時放送ニ関スル件通牒

昭和七年七月十四日 陸軍省 副官

第三(留守部) 第三、第四、第五、第六、第七、第九、

第十(師團) 參謀長ノ通牒

財團日本放送協會ノ經營ニ係ル放送無線電話局

ノ放送局附近ニ於ケル陸軍用無線機ニ係ル通信

ニ支障ヲ及ボスニホクルヲ以テ其ノ放送時間ハ配當

ハ陸軍、通信兩者協議、上附表第一ノ通定×3レタ

ルニ臨時ニ放送時間ヲ變更スル場合ハ各部隊

毎ニ附表第二ニ依リ協議ニ應ジテ軍用無線ニ於テ

甲輯第五類 其二 目次

衛生 醫事

件

名

編次番號

一 陸軍共濟組合規則ニ依ル官設診療機關ニ於テ醫療給付額中増額ノ件

二 日本赤十字社支部並同病院等ノ査閲綜合ノ所見ノ件

三 航空兵科士官候補生要員飛行適性検査ノ件

四 演習間ニ於テ食中毒豫防ノ件

形式	主務	年	受	番號
通	醫事	一〇	貳	一五六
全	全	一〇	全	九三九
全	兵務	一〇	全	一四一〇
全	衛生	一〇	全	二〇四六
合	合	合	合	合

表

頁

五 陸軍身体検査規則改正件

陸軍大臣官制施行規則改正件

日本赤十字社支店規則改正件

陸軍省官制施行規則改正件

件

陸軍省官制施行規則改正件

陸軍省官制施行規則改正件

省令 陸軍省 第一〇九六号

陸軍省

第一〇九六号

第一〇九六号

合

保存期限

永久

決裁指定

局長委任

決行指定

牛島

政務大官
回付

決裁
前後連帶
課名

恩賞

永久甲

監查課

吉野	吉野
井上	井上
天野	天野
澤本	澤本
中村	中村
塚本	塚本

受領番
件名
陸軍共濟組合規則ニ依ル官設診療所機關ニ於ケル醫療給付
額中増額ノ件

起元廳(課)名
飛行第八隊

陸軍省
10.24

0.1.28
2時
恩賞課

大臣

政務
次官

高級
副官

主務副官
官房御用掛
計

主務
局長

主務
課長

主務課員

主務局課

受領

昭和三十年一月十六日

連帶

局長

課長

大官房

受領

昭和三十年三月六日

決行後
決回

局長

課長

陸

軍



飛八村

陸共第一四一號

昭和拾年陸軍

陸共第一四一號

軍經由一五六號



陸軍

陸軍共濟組合規則ニ依ル官設診療機関ニ於ケル
診療給付額中増額承認相成度件照會

昭和拾年一月七日 飛行第八聯隊長下重長四郎

陸軍次官橋本虎之助殿

昭和三年三月三十一日陸普第一三七六號別表診療費
数表中マラリア患者診療ノ際ニ於ケル内服薬ノ
費額ヲ左記ノ通増額承認相成度

左記

使用薬剂	現在費数	改訂費数	摘要
アクリン及プラスモヒン調劑	一日分 一員十一銭	一日分 七員七銭	現在一般内服薬トシテ費数表 ニ依リ一員トシテ計算ニアリ

理由
本劑ノ實際ノ價格ハ一日分七員五銭ニシテ診療費数表
ニ依リ一員トシテ計算ニ支拂ヲ受クルトキハ職工診

療費ニ依リ一員トシテ計算ニ支拂ヲ受クルトキハ職工診

本件費存ノキ本劑ヲ用クニ他ノ藥物
ヨリ治療トスルヲ得ナレバ令限定セシ

貴見承リ度

恩賞課御中

貴課意見見同 陸軍省恩賞課

恩賞課御中

陸軍

故ニ患者數ノ減少ヲ期シ得ルハ勿論作業能率上ニモ好影響ヲ及ホスモゾトス

右調査スルニ既定額ヲ以テシテハ支弁シ難キ現狀ニ付「マラリア」病ニ限り一日七点以内ト増額方針議相成度

昭和十年一月十日

臺灣陸軍共濟組合

總長 山本昇



陸普

次官ヨリ日本赤十字社々長ニ通牒

昭和九年度ニ於テ各軍醫部長ノ實施シ大臣ニ

報告シタル貴社支部並同病院等ノ査閲綜合

所見別紙ノ通牒ス

進テ本別紙ハ本月六日地方長官會同ノ條各參列

者ニ配賦セラレタルニ付申添フ

陸普第二六四五號

昭和十年五月八日



日本赤十字社々長ニ通牒ス

日本赤十字社

11月11日
11月10日
11月9日
11月8日
11月7日
11月6日
11月5日
11月4日
11月3日
11月2日
11月1日
10月31日
10月30日
10月29日
10月28日
10月27日
10月26日
10月25日
10月24日
10月23日
10月22日
10月21日
10月20日
10月19日
10月18日
10月17日
10月16日
10月15日
10月14日
10月13日
10月12日
10月11日
10月10日
10月9日
10月8日
10月7日
10月6日
10月5日
10月4日
10月3日
10月2日
10月1日
9月30日
9月29日
9月28日
9月27日
9月26日
9月25日
9月24日
9月23日
9月22日
9月21日
9月20日
9月19日
9月18日
9月17日
9月16日
9月15日
9月14日
9月13日
9月12日
9月11日
9月10日
9月9日
9月8日
9月7日
9月6日
9月5日
9月4日
9月3日
9月2日
9月1日
8月31日
8月30日
8月29日
8月28日
8月27日
8月26日
8月25日
8月24日
8月23日
8月22日
8月21日
8月20日
8月19日
8月18日
8月17日
8月16日
8月15日
8月14日
8月13日
8月12日
8月11日
8月10日
8月9日
8月8日
8月7日
8月6日
8月5日
8月4日
8月3日
8月2日
8月1日
7月31日
7月30日
7月29日
7月28日
7月27日
7月26日
7月25日
7月24日
7月23日
7月22日
7月21日
7月20日
7月19日
7月18日
7月17日
7月16日
7月15日
7月14日
7月13日
7月12日
7月11日
7月10日
7月9日
7月8日
7月7日
7月6日
7月5日
7月4日
7月3日
7月2日
7月1日
6月30日
6月29日
6月28日
6月27日
6月26日
6月25日
6月24日
6月23日
6月22日
6月21日
6月20日
6月19日
6月18日
6月17日
6月16日
6月15日
6月14日
6月13日
6月12日
6月11日
6月10日
6月9日
6月8日
6月7日
6月6日
6月5日
6月4日
6月3日
6月2日
6月1日
5月31日
5月30日
5月29日
5月28日
5月27日
5月26日
5月25日
5月24日
5月23日
5月22日
5月21日
5月20日
5月19日
5月18日
5月17日
5月16日
5月15日
5月14日
5月13日
5月12日
5月11日
5月10日
5月9日
5月8日
5月7日
5月6日
5月5日
5月4日
5月3日
5月2日
5月1日
4月30日
4月29日
4月28日
4月27日
4月26日
4月25日
4月24日
4月23日
4月22日
4月21日
4月20日
4月19日
4月18日
4月17日
4月16日
4月15日
4月14日
4月13日
4月12日
4月11日
4月10日
4月9日
4月8日
4月7日
4月6日
4月5日
4月4日
4月3日
4月2日
4月1日
3月31日
3月30日
3月29日
3月28日
3月27日
3月26日
3月25日
3月24日
3月23日
3月22日
3月21日
3月20日
3月19日
3月18日
3月17日
3月16日
3月15日
3月14日
3月13日
3月12日
3月11日
3月10日
3月9日
3月8日
3月7日
3月6日
3月5日
3月4日
3月3日
3月2日
3月1日
2月28日
2月27日
2月26日
2月25日
2月24日
2月23日
2月22日
2月21日
2月20日
2月19日
2月18日
2月17日
2月16日
2月15日
2月14日
2月13日
2月12日
2月11日
2月10日
2月9日
2月8日
2月7日
2月6日
2月5日
2月4日
2月3日
2月2日
2月1日
1月31日
1月30日
1月29日
1月28日
1月27日
1月26日
1月25日
1月24日
1月23日
1月22日
1月21日
1月20日
1月19日
1月18日
1月17日
1月16日
1月15日
1月14日
1月13日
1月12日
1月11日
1月10日
1月9日
1月8日
1月7日
1月6日
1月5日
1月4日
1月3日
1月2日
1月1日

昭和九年度日本赤十字社支部並同病院等ノ査閲報告綜合所見



陸 昭
軍 和
省 十
年
五
月

昭和九年度日本赤十字社支部並同病院等ノ査閲報告所見

昭和十年五月
陸軍省

本編ハ昭和九年度ニ於テ各軍醫部長ノ實施シタル日本赤十字社各支部並同病院等ノ査閲報告ヲ綜合シ之ニ所見希望ヲ附シタルモノナリ同社支部トシテ監督上ノ參考ニ資セラレシコトヲ望ム

救護團體ノ整備

日本赤十字社事業中最モ重要ナル戰時救護事業ノ根幹タルヘキ救護團體整備ノ狀況ハ各支部トモ概ネ適切ナル計畫ノ下ニ順調ニ進捗シツツアルヲ認ム、然レトモ支部箇々ニ觀察スレハ其ノ實績ニ著シキ差異アリ殊ニ本整備ノ完了スヘキ最終年ニ到達シタルニ拘ラス豫期ノ如ク實施シ得サルトコロアリ、之レ支部經濟力ニ依ルナランモ寸時モ偷安ヲ許ササル現下ノ情勢上軍部トシテハ更ニ本整備ノ擴充ヲスラ要望セン

ト欲スル狀況ナルヲ以テ、諸種ノ支障ヲ克服シ速ニ之カ完成ニ努ムル
如ク指導ヲ望ム

一、救護員ノ充實計畫ニ就テ

(一) 救護醫員ノ充實ニ就テハ前年ニ比シ成績稍々良好ナリト雖依然ト
シテ救護團體分擔數ニ要スル人員ヲモ充足シ得サル支部アリ、又
任用者中ニハ老齡ニシテ戰務ニ服シ得ヘキヤヲ危マシムル者或ハ
支部病院ノ院長及副院長等ノ如ク實際上充當不可能ナラスヤト思
考セラルル者ヲモ充當シアルトコロアリ

(二) 救護看護婦長及救護看護婦ノ充實計畫ハ概ネ良好ナルモ支部ニヨ
リ看護婦中ノ古參者又ハ成績可良ナル者ヲ以テ看護婦長ノ要員ニ
充當シ或ハ正規ノ養成ヲ行ハスシテ看護婦講習生ヲ以テ看護婦ニ
代用シ又ハ養成人員ヲ減少シテ任用者ノ誓約年限ヲ延長シ人員ヲ

充足セントスル等極メテ消極的ナルトコロアリ、斯ノ如キハ救護員ノ素質ヲ低下シ救護團體ノ活動力ヲ減殺スルモノナルヲ以テ宜シク補充ノ本態ニ復スル如クスルノ要アリ

(三) 救護團體編成要員ハ概ネ新年次者ヲ以テ充足スルコトニ留意セラレツツアルモ其ノ實施未タ徹底セサルトコロアリ、壯年ニシテ且ツ最近ニ教育ヲ終了シタル救護員ノ如キハ努メテ正員ニ充當スルト共ニ老年又ハ舊年次者ヲ逐次豫備員ニ當テ以テ有事ニ於ケル應召率ノ低下ヲ防止スルト共ニ救護團體ノ内容ヲ堅實ナラシムルノ着意ノ足ラサルトコロアリ、尙編成要員中ニ大正十二年陸軍省令第二八號看護婦長及看護婦採用規則ニ依リ衛戍病院ニ採用シアル看護婦長及看護婦ヲ充當シアル所アルハ一考ヲ要ス

(四) 救護團體編成要員タル救護看護婦ノ整備完了ヲ以テ爾後ニ於ケル

(一) 陸海軍ニ於ケル兵器ノ進歩、戰鬪法ノ變遷ニ伴ヒ軍衛生勤務ハ近時頓ニ複雑化シ諸制規モ亦新ニ制定改廢シタルモノ尠カラス依テ救護員ノ教育ニ當リテハ一層軍部トノ連繫ヲ密ニスルヲ必要トス、本年救護看護婦生徒及救護看護婦長候補生徒養成規則第五條ニ基キ救護看護婦生徒ノ實施スヘキ陸海軍病院勤務ノ見學ニ就キ遺憾ナカラシムル如ク本社及陸軍省ヨリ支部及軍醫部ニ指示スルニ至レルヲ以テ相互ニ連繫ヲ密ニシ實施セシメラレムコトヲ望ム

(二) 瓦斯防護法及瓦斯傷救護法ノ教育ハ未タ徹底的ナラサル處多シ、救護員ハ將來戰ニ於テハ直接軍務ニ服スル者ハ勿論之ニ服セサル者ト雖地方民衆ニ對シ指導的位置ニ在ルヲ以テ速ニ陸軍制式ノ對瓦斯醫板類ヲ整備シ本教育ノ實施ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス、防空演習ニ參加シ又ハ衛生隊演習等ノ見學ヲ實施シタル支部アルハ

未夕重要資材ノ準備ヲ缺キ或ハ準備ノ緩急ヲ顧慮スルノ著意乏シキ處アリ、戰時事變ニ際シテハ臨機調辨困難ナルモノアルヲ以テ努メテ平時ニ於テ整備スル如クスルノ要アリ

(二)昭和七年本達第二號ニ依リ改正セラレタル救護團體救護材料準備規程第二條第一項以外ノ救護材料整備ノ爲蓄積スヘキ資金ノ準備十分ナラサル所アルハ注意ヲ要ス

(三)衛生材料ノ格納保全ノ狀況ハ前年ニ比シ改善セラレタル點尠カラサルヲ認ムルモ支部ニヨリ其ノ実績ニ逕庭アリ取扱者ヲシテ一層格納保全ノ要領ヲ會得シ實施セシムルヲ要ス

救護事業ノ實施

日本赤十字社ノ本領ハ戰時救護事業ニ在ルヲ以テ平時事業ヲ實施スル場合ニ於テハ直ニ之ヲ戰時救護施設ニ轉換シ又ハ之ヲ增強スル如キ著

意ヲ以テ計畫スルノ要アリ、則チ病院、療養所等ノ設計、災害救護ニ用フル衛生材料並輸送材料ノ規格等ノ如キハ戰時直ニ之ヲ使用シ得ル如ク顧慮スルヲ必要トス

一、病院ノ規律、設備

病院ノ設備ハ逐年改善セラレ年間京都、埼玉支部及大連病（療）院ノ新設大阪、福井支部病院病棟ノ増築等アリ然レトモ出火ノ爲病棟ノ一部焼失セル處アルヲ遺憾トス

各病院及診療所ニ於ケル規律ハ概ネ嚴肅ニ維持セラレ職員何レモ赤十字精神ヲ體シ患者ニ接スルヤ貧富ヲ論セス懇切丁寧ニシテ其ノ聲價ヲ高メツツアルヲ認ムルモ將來一層精神的要素ノ充實ニ依リ赤字病院ノ使命ヲ發揮セシムルノ要アリ

二、災害救護

各地方ニ於ケル災害救護ノ實施ハ概ネ敏速適切ニ實施セラレ地方人ニ對シ多大ノ感銘ヲ與ヘツツアルヲ認ム、又救護實施ニ當リテハ狀況之ヲ許セハ努メテ在郷者ヲ召集服務セシメテ戰時事變ニ於ケル豫習タラシムル如クスルヲ得サルヤ研究ヲ望ム

三、結核撲滅

結核撲滅事業ニ就テハ平時事業中最モ力ヲ之ニ傾注シアルヲ認ム、結核ニ依ル服役免除者ノ收療ニ對シテハ各支部トモ多大ノ同情ヲ以テ診療ニ服セラレアルモ支部ニヨリ時トシテ收容力ナキノ故ヲ以テ之カ診療ニ應セサルコト屢々アリ、該患者中斯ノ如キ希望ヲ申出ツル者ノ内ニハ家庭及境遇上同情スヘキモノ多カルヘキヲ察知シ努メテ之カ希望ニ應スル如クセラレムコトヲ切望ス勿論本事業ノ如キハ國家施設トシテ實施スヘキ事項ナルモ未タ其ノ機運ニ達セス赤十字

社ノ努力ニ俟ツコト切ナルモノアリ、而シテ最近本社病院ニ於テハ
結核救療患者收容病室ヲ陸海軍ノ結核ニ依ル除役者ニ優先權ヲ與フ
ル如キ計畫アルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ他ノ病院ヲ之ニ倣ハシムル
如ク助力ヲ望ム

四事變ニ關聯スル事業

傷痍軍人竝出動軍人遺家族ニ對シ無料又ハ低廉ナル治療費ヲ以テ之
カ診療ニ應シ又傷痍軍人ノ職業再教育、傷病兵ニ對スル慰問、恤兵
品ノ寄贈、輸送時ニ於ケル送迎、慰籍ニ努メアルハ傷病者ノ感謝シ
アル所ナリ

之ヲ要スル二年間ニ於テ冷害、旱害、風水害等ノ天災各地ニ頻發シ疲
弊甚シキ地方尠カラスシテ支部經濟ニモ多大ノ影響ヲ與ヘタルニ拘ラ
ス社業概ネ順調ニ進展シ殊ニ戰時救護團體ノ整備、救護員ノ教育ニ就

テ向上改善ノ跡ヲ見ルハ欣幸トスル所ナルモ將來戰ニ於ケル救護事
業ノ益々多事多難ナルヘキニ鑑ミ速ニ戰時救護團體及之ニ要スル資
材ノ整備ヲ完了シ更ニ進テ之カ擴充ニ努ムルト共ニ尙戰時救護事業
ノ延長タル傷痍軍人ノ診療救恤ニ一層ノ力ヲ致スヲ必要ナリト認ム

事)

保存期限 十年 決裁指定 決行指定 牛島

大臣		委員		局長		主務局長		主務課長		主務課員		主務副官		主務御用掛		書記官		審案		筆記者	
局長		高級副官		參與官		主務課長		主務課長		主務課員		主務副官		主務御用掛		書記官		審案		筆記者	
局長		高級副官		參與官		主務課長		主務課長		主務課員		主務副官		主務御用掛		書記官		審案		筆記者	
局長		高級副官		參與官		主務課長		主務課長		主務課員		主務副官		主務御用掛		書記官		審案		筆記者	

航空兵科士官候補生要員飛行適性検査件

軍務局兵務課

政務次官 回付 決裁前連帶課名 軍務局 第一四一〇號 起元廳(課)名

永久甲

主 徵 醫 監査 衣

陸軍省 10.7.11. 午後 時 主計課

房官臣大 課局務主 了結 領受 出提 領受 號番 昭和 昭和 昭和 兵務甲第四三號 昭和十年七月十日 昭和十年八月十九日

(裁決)行決 覽回後 帶連

局長 局長

長課 長課

陸軍

昭和十年度航空兵士官候補生要員ニ對スル
飛行適性検査實施要領

一、要旨

本年度航空兵科士官候補生要員決定上ノ參考ニ
資シ且將來ニ於ケル資料ヲ得ントスルニ在リ

二、期日及場所

概ネ七月中ニ終了スル如ク約十五日間ニ亘リ所屬
陸軍飛行學校ニ於テ行フ

三、受檢者、行動

航空勤務者第二次身體検査合格者七十三名ヲ

三分シ約二十四名ヲ一組トシ各組ハ逐次約五日間
所澤陸軍飛行學校内ニ宿泊ス

四、其他

検査ノ結果適任者ヲ甲、乙、丙ノ三階ニ分チ其
人名ヲ秘扱トシテ教育總監部ニ移牒ス

陸軍部

一四一〇

教庶第壹參九番號第二

昭和拾年七月十二日

陸軍部 10.7.12 1933

軍

陸軍部

航空兵科士官候補生要員飛行

適性検査合格ノ件回答

昭和拾年七月拾日

教育總監部本部長林

桂

陸軍次官

橋本虎之助殿

首題ノ件ニ関シ七月十日附陸普第三九五五
號照會ノ趣異存無之實施方取計ト置ケ

兵務
本

貳
第一四一〇番其二

航教第 三〇〇號

航空兵科士官候補生要員飛行適性検査實施ノ件報告

昭和十年七月廿四日 陸軍航空本部長 堀 丈夫

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

七月十日附陸普第三九五五號通牒ニ依リ首題ノ検査成績別紙ノ通
報告ス



10.7.25
10.7.25

御
封
印

陸軍

兵務
本部

印

第一〇一〇號其二

航教第 五三七號

航空兵士官候補生要員飛行適性検査所見ノ件報告

昭和十年八月六日 陸軍航空本部長 堀 丈夫

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

七月十日附陸普第三九五五號ニ基キ所澤陸軍飛行學校ニ於テ實施
セシ首題検査所見別紙ノ通報告ス

陸軍航空部
長官印

陸軍省
昭和十年八月七日
午前六時
官印

陸軍省
10.8.8
軍事課

陸軍省
10.8.12
補任課

陸軍省
10.8.7
兵務課

陸軍省
10.8.15
36

1934

別紙

陸軍士官學校豫科生徒操縦適性検査所見

昭和十年七月
陸軍飛行学校

一、検査日数

全員何日間トナスコトナク素質不明ノモノニ就テノ最大限ノ日数ヲ使用スル如クシ其他ハ逐時判定次第歸校セシムルヲ可トス而シテ其日数ハ最少五日最大十五日ヲ可トス
(但シ予備日数ヲ含ム)

二、検査時機

身体検査ニ引續キ實施スルヲ可トス之地上ニ於テ必要トスル検査ハ身体検査ノ際實施シ得ルヲ以テナリ

三、操縦適性検査ノ要素

學校ニ於ケル一般ノ成績及身体検査ノ成績ハ操縦適性検査ニ最モ大ナル關係ヲ有スル要素ナルヲ以テ豫メ綿密ナル連繫ニヨリ検査日時ノ短縮ト検査ノ適正ヲ期スルヲ要ス
四、使用飛行機ニ就テ



10.8.7

單ニ同乗セシメテ行フ検査ニハ中間練習機ヲ使用シ操縦セシ
メテ行フ検査ニ初歩練習機ヲ使用セシムルヲ可トス之レ生徒
中ニハ既ニ同乗ノ経験ヲ有シ速度遅キ飛行機ニテハ何等ノ感
興ヲ引カサルモノアルヲ以テナリ

五 全般ニ就テ

1. 全般ヲ大觀スルニ豫科ノ全般成績優秀ナルモノハ操縦素質悉ク
適當ニシテ劣等ナルモノハ之ニ反ス中ニハ判然セズ航空ノ実情
ト将来ヲ考フル時ハ成績ノ優秀ナル者ヲ採用スル事特ニ
必要ナリ又検査ハ所要ノ人負ニ就テ所要ノ課目ノミ檢
査スルヲ可トス

2. 豫科中隊長ヲ生徒ト同様ノ試験課目ニ依リ飛行機ニ搭
乗セシメタルカ将来生徒ノ航空兵志願者ノ助成並兵科決定
ニ大ナル參考タルモノト認ム

3. 今回ノ飛行検査ニ依リ航空志願ノ以薄弱ナリシモノモ熱烈
ナル志願者トナレリ航空兵志願セサルモノト雖飛行検査

2. 豫科中隊長ヲ生徒ト后橋ノ談話
乗セシメタルカ将来生徒ノ航空兵志願者ノ助成並兵科決定
ニ大ナル參考タルモノト認ム
3. 今面ノ飛行検査ニ依リ航空志願ノ薄弱ナリシモノモ熱烈
ナル志願者トナレリ航空兵志願也ナルモノト雖飛行検査

ヲ行フ時ハ及テ多数ノ志願者ヲ得ル見込十分アリ生徒ニ予メ飛
行機ニ親マシムルコト必要ナリ

4. 航空兵志願ハ特異ナルモノヲ除キ各自ノ希望ニヨル事ナク命令ニヨリ
成ル可多数ノ者ニ対シ所要ノ検査ヲ行ヒ航空兵科ヲ決
定スル如クスルヲ適當トスヘシ

保存期限

決裁指定

決行指定

局長委任

牛島

四

政務大官
參與官 同付

決裁前
後一連帶
課名

衣糧、兵務、軍事

決行決裁後
回覽課名

受領
番號

陸軍省

二〇四六

起元應(課)名

衛生課

衛生課

衛生課

件名

演習間ニ於ケル食中毒豫防ノ件

大臣

牛島

次官

高級
副官

牛島

主務副官
官房御用掛

主務
局長

主務
課長

主務課員

主務局長

受領

昭和十年十月

日

提出

昭和十年十月

日

大官房

受領

昭和十年十一月

日

了結

昭和十年十一月

日

決行決裁後
回覽

局長

連帶

局長

長課

長課

陸軍

永久甲

Handwritten notes on the right side of the page, including a vertical line of text and some illegible markings.

陸普第

辨

副官ヨリ各師團（車）參謀長宛通牒案（關東、支那

ヲ除ク）

（秋葉山方面ハ為守兵隊）

首題ニ關シテハ夫々周到ナル注意ヲ拂ヒアルモノト信スルモ最近
某師團秋季演習中山間ニ部隊宿營ノ際舍主給養ヲ實施セル所供給
食品中蝟、竹輪等不良品アリタルカ如ク食中毒患者數十名發生シ
内十數名入院シ田名ノ死亡者ヲ出セリ

國軍給養上遺憾ニ堪ヘサル所ナルヲ以テ野外ニ於ケル食中毒豫防
ニ就テハ地方官民ト緊密ナル連繫ヲ保持スル等各般ノ手段ヲ講シ
不祥事ノ發生ヲ未然ニ防止スル如ク此ノ際部隊ノ指導上配慮相成
度

陸普第五六九五號

昭和十年十月七日



陸軍省
10.12.9
69

永久甲

陸普第五六九五號

昭和十年十月七日



保存期限

永久

決裁指定

次官委任

決行指定



五

政務次官 參與官 回付

決裁前後連帶課名 (軍醫) (陸軍) (衛生)

決行(決裁)後 回覽課名

受領番號

陸軍身體檢查規則改正ノ件

起元應(課)名

醫事課

件名

陸軍身體檢查規則改正ノ件

政務次官

參與官

書記官

審案 筆記者

大臣

次官

高級 副官

主務副官 官房御用掛

主務局長

主務課長

主務課員

主務局長 領受 號番

昭和十年十月十日

連帶

局長

課長

大臣官房 領受 了結

昭和十年十月十日

決行(決裁)後 回覽

局長

課長



永久

陸軍省令案

(別紙ノ通り)

陸軍省令第二十五號

吉吉

理由

陸軍航空技術學校並ニ熊谷陸軍飛行學校創設ノ結果從來ノ所澤
陸軍飛行學校技術生徒ハ前者ニ於テ、同操縦生徒ハ後者ニ於テ
教育セララルコトナリタルニ由ル

大官

陸

軍



第二十九條並ニ第三十條第一項及第三項中

「所澤陸軍飛行學校技術生徒」ヲ「陸軍航空技術學校技術生徒」ニ改ム

第三十三條、第四十一條、第四十五條、第四十七條並ニ附錄第五ノ八ノ

項中

「所澤陸軍飛行學校操縦生徒志願者」ヲ「熊谷陸軍飛行學校操縦生徒志願者」ニ改ム

第四十三條 不合格ト爲スベキ標準ハ附錄第五ニ依ル但シ所澤熊谷陸軍

飛行學校操縦生徒志願者第一次検査ニ在リテハ附錄第三若ハ同第五ニ

該當スル者又ハ各年齢ニ於ケル身長別胸圍、體重ガ附錄第四ニ規定ス

ル最下限度ニ達セザル者ハ之ヲ不合格トス

附錄第四備考

三 陸軍工科學校生徒、陸軍通信學校生徒及所澤陸軍飛行學校生徒志

新舊對照

三 願者、熊谷陸軍飛行學校操縦生徒及陸軍航空技術學校技術生徒志

願者ニ在リテハ本最下限度ニ胸圍ニ在リテハ〇・〇一米、體重ニ

ハ在リテハ一〇〇斤ヲ加ヘタルモ少ヲ以テ最下限度トス

類書ハハ條又ハ各半額ニ付テハ各段限圍ノ體取ハ概數第四ニ註家ハ

兼許學對兼主封志體書第一支附查ニ去リテハ備錄第三卷ハ同錄正ニ

第四十三號 不合各十段ノハ中附錄ハ相續限正ニ對ハ出ニ補錄第三卷

類書一ニ註△

一 願者陸軍飛行學校兼主封志體書「マ」熊谷陸軍飛行學校兼主封志

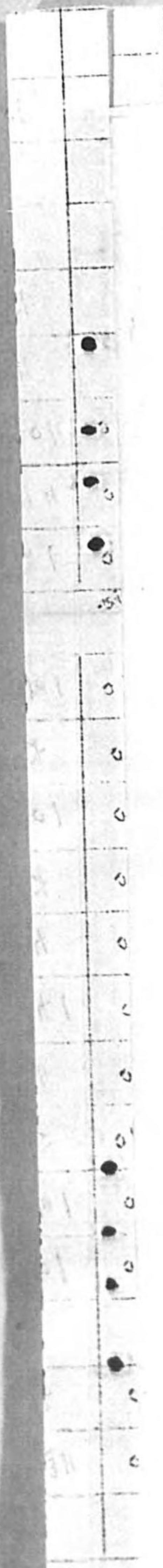
軍中

第三十三號、第四十一號、第四十五號、第四十九號並ニ相續限正、八、

一 願者陸軍飛行學校兼主封「マ」陸軍飛行學校兼主封「ニ」註△

第二十八號並ニ第三十號第一頁及第三頁中

海軍陸軍



甲輯第五類 其二 目次

馬政

編次番號

件

名

編次番號	件	名	形式	主務	年度	受	番號
一	臨時補充馬貸借ニ関スル	貸借ノ件	通	馬政	九	野	二〇五
二	軍用適種犬ニ對スル畜犬稅減免方ニ関スル	件	令	令	一〇	壹	七五八
三	常用獸醫材料科備付定數及裝蹄剔毛器械備付標準ノ件		達	令	一〇	貳	一〇一〇
四	輕輓馬格校馬補充ニ関スル	件	通	令	一〇	壹	一〇〇二
			合	合			合

馬政

表

頁

一 昭和十年軍備改変に伴つて増加馬に關スル件

一 二 軍備改変等に依り増加(轉属)馬に關スル件
一 〇 輸送等に關スル件

一 三 馬政第二次計畫送付ノ件

通

馬政

一 〇 報

三七四六

合

合

合

一 〇 〇

二〇〇八

合

合

合

一 〇 〇

二五八四

合



二一〇五

三獸留第五一七號

臨時補充馬貸借ニ關スル協定ノ件申請

昭和九年三月拾九日

第三師團留守司令官稻垣孝照

陸軍大臣林銑十郎殿

豊橋臨時補充馬廠ト豊橋陸軍教導學校トニ
於テ別紙協定案ニ依リ臨時補充馬貸借ヲ實
施致度ニ付認可相成度申請ス



陸



軍